

はじめに□□□

これまでの障がいのある方への就労支援は、技術の習得や訓練が中心でしたが、昨今では、一人ひとりのニーズの把握や就労意欲の喚起などの支援者側の専門的課題が明確となってきました。たとえば、企業内の障がい者に対する意識の調整、複雑な通勤の課題、生活支援を必要とする方の住居の問題、あるいは金銭管理等の問題を抱えている方など、就労を支える基盤の調整を適正に行っていくことも就労を継続するには重要な視点であることも理解されてきました。

つまり、広義の就労支援においては、さまざまな機能を持った事業所が対象者の問題を共有し、それぞれの立場で役割を分担し継続した支援が行われていくことが重要な課題であることも共通意識となってきました。

しかしながら、これまでのさまざまな機関では、情報を共有しても連携した取り組みがなかなかできなかったのが事実です。連携やネットワークとは、支援者の動きを野球に例えると、コーチがノックをして球を取る練習はできて、連携プレーは他の仲間と一緒に何度でも何度でも練習をして初めてできるものです。セカンドベースには誰が入るのか、カバードは誰がするのかというセオリーはわかっているにもかかわらず実際練習をしないとゲームは通用しません。

今回の就労部会では、上記のようなことから、実際の事例に対して、どの事業所がどのような関わりを行ったか、あるいはその時にどのような機能を持った事業所が関係すればもっとうまくいったのかという視点から検討をはじめ、就労支援を行う支援者に対して、対象者のさまざまな相談に対応できるように、この事例集を作成いたしました。

熊本市障害者自立支援協議会の就労部会のみなさん方の手弁当による協力があって、この冊子が出来上がりましたこと、まずもってお礼を申し上げます。

熊本市障害者自立支援協議会 就労部会長
第二城南学園長
熊本障害者就業・生活支援センター長

甲斐正法